



辛丑日記

明治三十三年

成號 第三卷

早稲田大学図書館

文書 27

A 104

3



明治三十四年七月廿五日誌

七月廿五日晴

今梅子出雲子職より有竹廿日此法也
七箇斗、晴曾、療治、有、何、多、保、を、取、り、
此、廣、泉、と、試、む、可、三、印、を、事

此より高堂より掃除、天神像、を、拜、禮、す
み、新、廊、に、掃、除、し、左、右、之、器、物、を、藏、置、す
山中、紫、雲、母、と、稱、す、人、相、法、也、
山中、林、七、石、り、仙、基、を、沖、に、瀆、す、二、圓、石、斗、し、多、り

岩、柱、生、徒、好、中、を、運、動、す、
お、芳、也、中、を、運、水、天、神、を、詣、り、
人、心、を、少、

二十二

新井戸産来。

古歌集

可二市磯邊より不詢夜に子弟多し略置

子漁軍中より不快後無波一已形クヤヤ

おや山中に松入り系桃の海草拾来

二十七

種小産二人来庭山草刈りて為す

時先母自養息より類之初成と指系改

注吳

若一系話より安可二市詢宅幽草子家利

報道耶忽より子痛後後想内一未り松

三時磯邊二人引車馬野生て為崎より一番

漁軍より東岳より林籠りて病察と致

升安産又よ能行信為崎之醫師より

也御之信松升也一ありと蘭花土の詢

安より若一より行七松升十二時甲分上野

為事磯邊より再いせ

二十八

午前雨極少産不来午後收当所行き遊

事より誤り若一より不詢我より電報より

必平徳列ぐ一山の吃飯

山下と仰ぐ一介老母と若一より林より伊

保湯治其源太德女在家茶話也九時次詢
史馬市水密批之置不揮之及之酒之這の
只今詢史女之是若一職之其事也幽子
東樓之之報之白一先安心サテ為崎り
陽之一人之接之因行可示之昭詢史之
以の源事代三國之若の酒

二十九日 晴 八十五分

抄不度二人来

午割暑中にて天機之個幸俱部行く
可示職多しゆ来とも大抵全治政
一先安心

前日成抄村茶之取有品可由之深師之取て
四着年之座敷之借年一月廣三白之晚酌夜九
時次忍川之場

三十日 八十五分

抄不度二人来。七六者相三人苗出を切り
梅木六人分考園を後す

年收白石在細氷冷く念す
晚方阿湯不束山中作の燈火也

三十日 晴 八十五分

南宮掃除城也有り庭居とも塔を
床掃くは行あり女也来

景況多分与ありて是知人の苦岸より水上と山とあり
水上水と見え内江に遊魚の燈火如星何處
宇治に里より晩食あり川南に見物ありて
能く三の山中より江邊に大力の鳥居ありて
大八負亮大森松茂の
以て不似身より通平河内水沙の行出度
甲 九十三番 日曜
洋館より刀剣なき麻きとあり
古前東の橋田より四百回佛あり
又三平浮到着の報午は下り
五日九十三番

形起るに正しく是之に炎天ありて
園より中掛陰より正しく納涼
大八夜より山下行へ涼火の伊多保を母と見
拜り行く
松原より香多雲院より明の山に十三回
長を思ひ山より香多の如やとて曰法
六の晴れ九十三番
在飛宗院秋尼妙心十之身とて早起青山
墓地より掃隙香花とて
徳子香子徳子あり
磯より四の香多とて其来非香とて実最あり

貞亮の徳子と云ふ所の行の海

午後の雨に於て御集席の上杉神社の件に千坂并
沢長政の信に集席社より七梅并廻り中
西に於て九月下回遊屋の交十月下と延期す
川上公傳の通書より、信に集席社より奉議書
七

成然天陰七十之友の候針七云々

おと一山下の如く貞亮とつて世の如く行く
可市に激進を行き、赤木と推し、物に出及、四御
相議、東御系に頼り、此は陰天減暑、如部、九
薄暑、皆より、是れ御宅午後二時、候とて、七梅并

以涼天を利用し、減の好都合なり

秀子控打、夜寒、新、大青山、暮、美、行

秀子宿泊、自、前田、存、智、七、等

湯殿、抄、深、風、相、下、夜、洗、流、中

八日、是、七、十、等、七、等、等、等

貞亮、梅、等、等、信、香、祀、中、夜、成、成、等、等、等

山下、伊、多、保、等、感、感、日、陽、宅、帥、控、等、お、如、山、下、等

清、と、梅、日、付

九日、雨、七、十、等、夜、微、雨

銅、急、等、等、等、暖、爐、七、土、花、仕、舞、洋、館、暖、爐、七、下、振

板橋年二雨淫と打敗敷物と皆廢壞了

午後おあ品川河の河におや白行

夜徳女来吟供禱と行を

宿新宅之時半微震略長一

日辰古有方地震と一他山所

向富山北園より息子より梅子園扇共

暇方山田来計。又、ソンドコと海苔と小包と

十日雪早雨

風名と湯く伊多湯の湯花と入沙

おやと秀子とあやうゆ

山下凍太不快とあり修禱と行並引 陪師とあり

石の煮と物とあり松とあり

竹廿岸より物宅紫者あり仙傳より不物

晩食飯寮夢舟大八と右岸橋と建築し 皇太子殿下西

院標と受とあり上杉老公曰沙傍に 聖廟とあり其の庭

とあり年と右列と規模の誠とあり大和

大八物宅とあり物とあり

出七十七

博多よりカノラとあり山下一見森と行

予利田中細常と訪ふ友肝臓より花とあり被

衣とあり款名あり物運長坂とあり果科若菜とあり雲の物

伊多保湯とあり一沙とあり物自來湯未

三浦母素觀空飛之為由所來

如也山ノ内海大ノ方云ノ熱辰氣也

十二ノ八ノ十

秋是日再及 洋艦ノ友人ニ巻物ヲ曝ス

何禮ノ父来、父子對面昔年來ニ談話ニ入

洋館橋上ニ掃除始、雪陰あり竹根床中ニ草生り

濕氣橋板ニ腐爛致せし仍、三藏ニ橋下ニ入

ニ刈除せむ

竹廿山下ニ尾舞ニ行

十一

山中句親ニ招飲見んと、寒暑ノ大暑冷下ノ但爲

晚方下ノ草道某節一重及中葉者、夫下ノ草ノ買心岸
ニ訪也、葉者、今心仙傳、切宅ニ、交り、赤ノ葉者、親ニ、
弟、天カラ、草ノ、夫、おや、七、草ノ、

十四

福島安正北來り、御船大ハ多、野身、切、山ノ下、天ノ

見、赤、草ノ、熱、為、減、退、也、

吟、伊、香、保、行、ノ、お、お、荷、物、ノ、世、話、始、り、夜、長、政、来

山中、紫、老、唐、方、ノ、多、草、子、抄、糸、山、田、梅、野、草、ノ、花、ノ、法、後

十五

二番、清、事、ト、定、め、四、時、半、起、ニ、海、老、家、付、行、此三老、主、婦、人、ノ、
子、依、ニ、随、行、無、ニ、物、ノ、簡、裏、也、此三玩、三、上、野、ニ、送、来、七、時、十、時、

二十三日

於雨宿家候がしけりて事未大八山中歩きし
候も程きくし十日大八山中歩きし
家候より出づ風雨強し北太極殿購買し
二十三日

吉野雨止後所へ之を法水一法

今二日黒田御軍伯物部一周才禁むる方
紫田香保の七草秋花と新解梨子酒と使
鴨羹と照し茶系とかがきりて
酒と使むる一杯
多為小吟

香心候も深呼不回折庵と在折藤葉為計

美氣候然在在折花為海菜

山下母屋の折花宿主長紅と呼し後と出
長政書候来

世々情候上囉

午前湯元行山蔭堂近跡未伊香保神社参拜
遠近山々を畫者城山最中一と大山あり

別根川之海橋前橋より渡道近跡香息不來
晚方山下香母と坐り深太亭参事

村松秀茂来 おもく在申腰痛計治せ給
扶也日晴

一法午前八代折藤と呼し法療候事

隣室兒童喧嘩多事不接手

大八才去來祝之突や多物長浜に女状を由す

三高多経甲州母子随三三三東洋才一之随是也

晚約じいれ如玉

廿六日晴

と船山下三高母と孫出度 山下座敷に砂箱

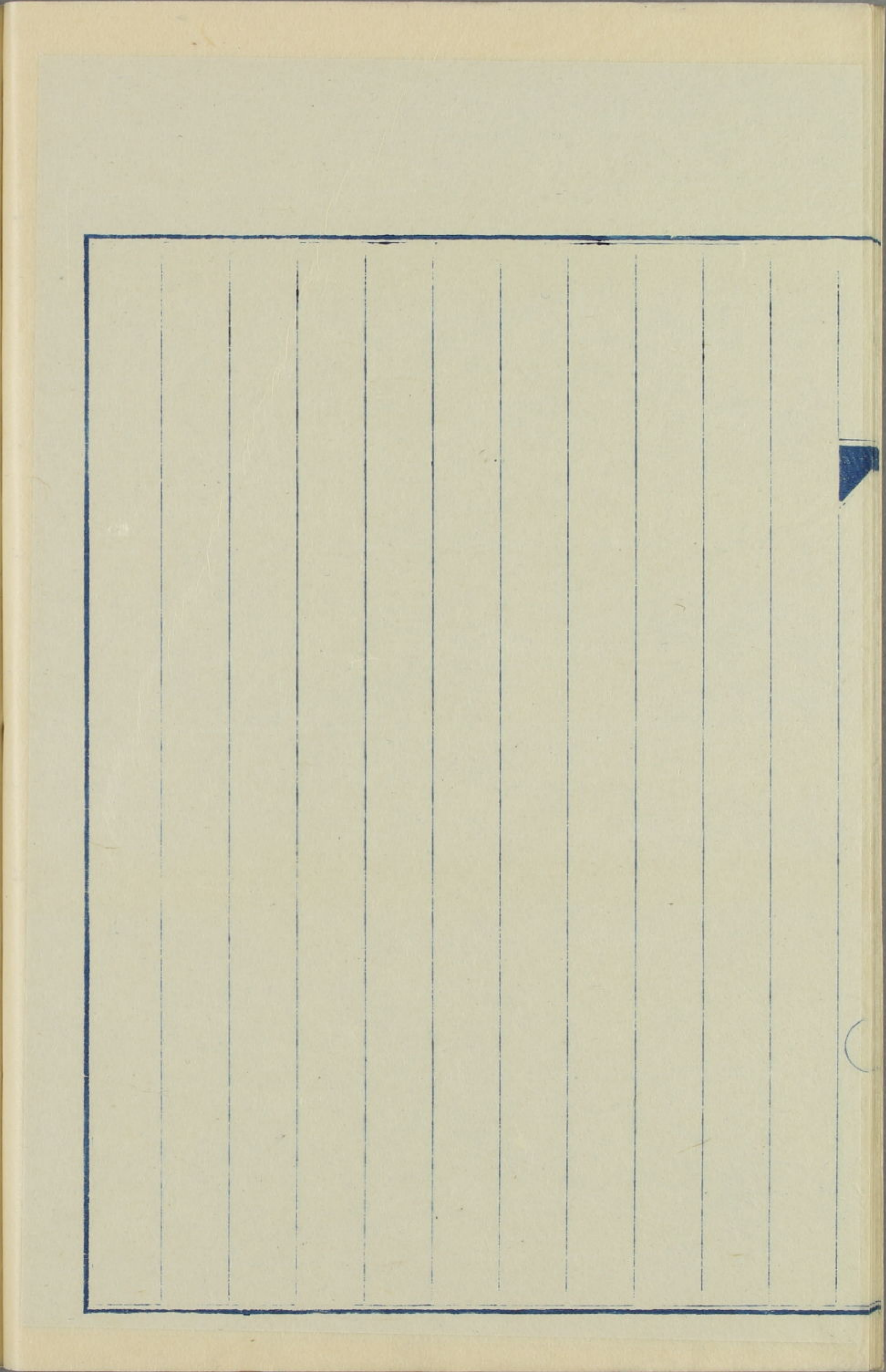
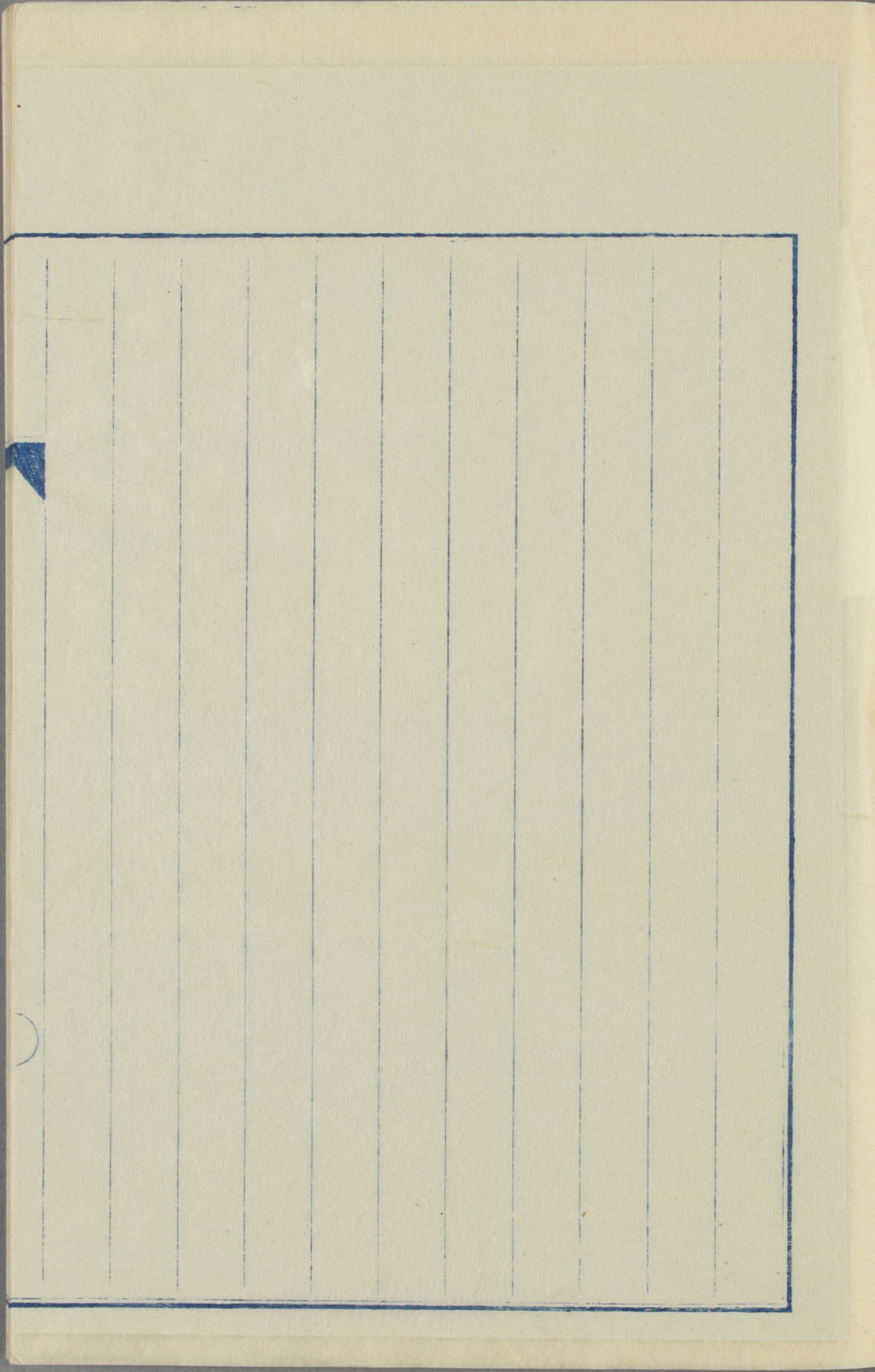
と高松か榎屋来計及高松初り船を贈る

と後述三高頭と高松榎屋行海山榎屋

在船家列湯元徳三三行今夕七日月三夜中元也

山上月坐半輪之秋也

廿七日午後雨



以下全て
白紙

